

健康なときも、そうでないときも
一番に思い出してもらえる存在で
ありたい—



環境経営レポート 2022年度 株式会社 平野

対象期間 2021年9月～2022年8月

発行日 2022年12月30日



目次・・・・・・・・・・・・・1
 株式会社平野のあゆみ・・・・・・・・1
 環境経営方針・・・・・・・・・・2
 SDGs への取り組み・・・・・・・・3
 組織の概要・・・・・・・・・・・・・4
 実施体制と役割分担・・・・・・・・5
 対象範囲、期間及び発行日・・・・6

環境経営目標（2021～2023 年度）・・・7
 環境経営計画・・・・・・・・・・・・・8
 取組結果とその評価・・・・・・・・9
 次年度環境経営目標・・・・・・・・16
 次年度環境経営計画・・・・・・・・17
 環境関連法規への違反・訴訟の有無・・・18
 代表者による全体評価・・・・・・・・19

株式会社平野のあゆみ

- 1980 年 創業
- 1983 年 平野調剤薬局オープン
- 1990 年 本社ビル（[平野屋薬局](#)）建設
- 1996 年 [平野グリーン薬局](#)オープン
- 1998 年 [平野拝志薬局](#)オープン
- 2002 年 [平野あさくら薬局](#)オープン
- 2005 年 けんこう広場（健康支援部門）開設
- 2007 年 在宅医療チーム立ち上げ
- 2010 年 環境宣言策定
- 2012 年 [まつだ薬局](#)オープン
- 2013 年 エコアクション 21 認証取得
- 2015 年 [平野ごう薬局](#)オープン



- 2018 年 健康サポート薬局認定取得（6 薬局）
SDGs への取り組み開始
- 2019 年 平野調剤薬局を[平野みらい薬局](#)として
リニューアル→地域 ESD 拠点登録
管理栄養士部門立ち上げ
- 2020 年 健康経営優良法人 2020 取得
太陽光発電自家消費開始（3 薬局）
- 2021 年 再エネ 100 宣言加盟
購入電気プランを再エネ 100 へ切り替え
- 2022 年 健康経営優良法人(ブライト 500)取得

環境経営方針

《会社経営理念》

私たちは常に学習に努め、社員満足と資質向上を原動力に、今治の地に根を張った薬局業務を創造発展させ、保険調剤&ヘルスケアで地域の皆様の QOL(生活の質)の向上に貢献します。

《基本理念》

平野薬局は、環境に影響を及ぼす物質の使用・排出削減に努め、健康で環境にやさしい生活習慣の提案とその実践に役立つ商品とサービスを提供し、地域の皆様の QOL（生活の質）の向上に貢献できるよう、継続的改善に積極的に取り組みます。

《基本方針》

①社員・経営陣の意識向上

一人一人がエコ活動を積極的に実施できるよう、社員教育・組織体制の整備等を通じ、社員・経営陣の地球環境保全に対する意識を高め、環境基本理念、基本方針を共有する。経営者のネットワークを活用して、エコ活動の幅を広げる。

②薬局・薬剤師の職能を活かす

地域の皆様の相談に応じられるよう、専門的知識の習得に努める。
多剤服用による健康への害を予防し、ポリファーマシーの解消に努める。
医薬品管理を徹底し、廃棄薬剤を減らす。

③環境関連の法を遵守する

環境に関する法律・政省令・条例等を遵守し、環境保全の向上に努める。

④省エネルギー・省資源・廃棄物の削減を推進する

電気・ガス・水道等のエネルギー使用量、紙類・レジ袋使用量等の削減に取り組み、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出総量、廃棄物等の削減に努める。

⑤地域の自然環境との調和を目指す

地域の環境保全活動、社会貢献活動等にも積極的に参加し、美しい地域環境作りに貢献する。

⑥環境啓発活動を展開する

環境方針を全従業員に周知するとともに、環境情報や環境保全の重要性を積極的に社外へも公表・発信する。

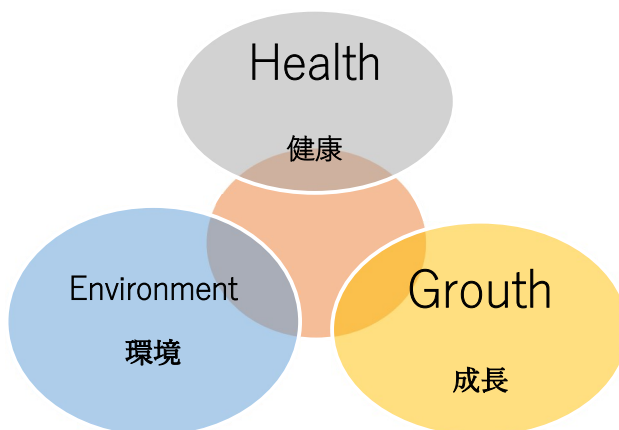
⑦SDGs（持続可能な開発目標）に取り組む

SDGs の掲げる現代社会の課題を自らの問題として捉え、環境活動に紐づけて身近なところから行動し（think globally, act locally）、持続可能な社会の実現に貢献する。

制定 2011.4.1、第 3 回改定 2019.9.1 株式会社 平野 代表取締役 松田 泰幸

SDGs への取り組み

株式会社平野は、7つの調剤薬局全店でSDGsのゴール17個全ての実現を目指して取り組んでいます。地元今治から地球の豊かな自然をそのままに、次世代の子どもたちへと引き継いでいきます。

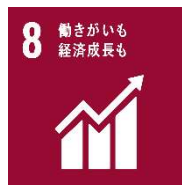


4つの重点ゴール



平野薬局の本業である保険調剤 & ヘルスケアで、患者様の立場に立った治療のサポートや病気にならないための健康支援を行います。

保険調剤・ヘルスケア・健康教室・在宅医療



資質向上と社員満足を原動力に、また、健康経営を内外に広め働き甲斐のある人間らしい仕事を達成します。

健康経営・業務改善・ICT導入・10年ビジョン



地域の教育機関と連携し、インターンシップや職場体験を通じて子どもたちに働くことについて考える機会を提供。また社内の環境を整備し、社員の生涯学習の機会を促進します。

実務実習・インターンシップ・社内研修会



地域の多職種と連携した仕事づくりや地域医療体制づくりなど、若者や高齢者等様々な世代の人たちが“帰れる”まちづくりに取り組みます。

地域医療連携・新卒採用・仕事づくり



地元紙で紹介されました

愛媛新聞 SDGs 特集の紙面 (2022.3.30) とオンライン記事にて、平野薬局の取組をご紹介いただきました。オンライン記事では、社員全員が“自分事”として取り組むに至った経緯や管理栄養士の活動などを詳しく紹介しています。

組織の概要

1) 事業所名及び代表者氏名

株式会社 平野
代表取締役 松田 泰幸

2) 事業所所在地

平野屋薬局(本店) 〒794-0028 愛媛県今治市北宝来町 2-2-22
平野みらい薬局 〒794-0028 愛媛県今治市北宝来町 2-4-6
平野拝志薬局 〒799-1502 愛媛県今治市喜田村 6-5-14
平野グリーン薬局 〒799-1522 愛媛県今治市桜井 4-12-27
平野あさくら薬局 〒799-1603 愛媛県今治市朝倉下甲 452-3
平野ごう薬局 〒794-0826 愛媛県今治市郷新屋敷町 3-1-42
まつだ薬局 〒794-0064 愛媛県今治市小泉 4-11-11

3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者氏名：森松 千晴
担当者連絡先：0898-32-0255

4) 事業活動の内容

保険調剤薬局(電子薬歴導入)
薬局製剤および要指導・第一～三類医薬品の販売
在宅薬剤管理業務実施
禁煙相談、栄養相談等

5) 事業規模

資本金 : 3000 万円
営業拠点：今治市内に調剤を主とした薬局 7 店舗
従業員 : 薬剤師 17 名、事務 16 名、管理栄養士 4 名

環境経営の実施体制と役割分担



環境経営レポートの対象範囲、期間及び発行日

1) 対象範囲（認証・登録範囲）

平野屋薬局、平野みらい薬局、平野ごう薬局、平野グリーン薬局、平野拝志薬局、平野あさくら薬局、まつだ薬局

全活動をエコアクション21の対象とし、活動は、薬局既存の組織体制を活用しながら、店舗ごとに活動単位を構成しています。各店舗に現場担当者“環境委員”を配置し、経営指針会議やグループウェアでの意見交換等を通じ、コミュニケーションを図っています。

全社員が参加する年3回の会議で進捗状況を確認し、随時情報を提供して意見交換を行っています。



2) レポートの対象期間及び発行日

レポートの対象期間 : 2021年9月～2022年8月

レポートの発行日 : 2022年12月30日

レポートの改定日 : 2023年4月30日

環境経営目標（2021～2023 年度）

依然として新型コロナウイルス流行の収束の兆しが見えず感染予防対策の必要性があること、ここ数年気候変動により夏場の猛暑が特に厳しく医薬品の品質管理のため薬局営業時間外にも医薬品室の空調運転を行っていること、2021 年度の各薬局での取組内容と数値結果を踏まえ、2023 年度までの電気使用量の目標値は基準年+2%以内に抑えることに下方修正いたしました（40 期経営指針発表会にて確認済み）。

なお、事業で使用する電気が全て再生可能エネルギーとなったこと（太陽光発電による自家消費+購入する電気も再生可能エネルギーによる発電のものにプランを切り替え）で電気使用による二酸化炭素排出量が0となったことに伴い、二酸化炭素排出量目標を大幅に上方修正いたしました。

項目	単位	基準年 (2020 年度)	中期目標		
			2021 年度	2022 年度	2023 年度
二酸化炭素排出量	kg-CO2	47613.7	48439.2 +約 1.7%以内	6336.84	6336.84
電気使用量	kWh	80080.0	81681.6 (+2%以内)	81681.6 (+ 2 %以内)	81681.6 (+ 2 %以内)
廃棄物排出量	kg	5618.8	5501.9	5477.0	5445.1
リサイクル率	%	73.8	約 77	約 78	約 79
水使用量	ℓ	338	401	401	401
エコピープルの育成	—		新入社員の eco 検定受験率 100%		
組織本来の取り組み	—		環境経営計画による取り組み→p.8		
環境啓発活動	—		環境経営計画による取り組み→p.8		

※化学物質使用量の削減については、化学物質の使用がないため目標の設定は行わない。

※電力からの二酸化炭素排出量の算定のために用いる排出係数は以下のとおり。

基準年、2021 年度は、調整後排出係数 0.528(kg-CO2/kwh)（四国電力発表 2018 年度実績）

2022 年度は、調整後排出係数 0.000(kg-CO2/kwh)（みんな電力 RE100 プラン）

P.9 の「取組結果とその評価」についても同様。

環境経営計画（2022年度）

※一今期追加

1) 二酸化炭素排出量の低減

- ・夜間、休日はパソコン、プリンター等の主電源を切る。
- ・空調の適温化に努める。（ただし、医療機関であるため、来局者が不快でない温度設定。また夏場休日中に高温にならないよう医薬品の適正な温度管理。）
- ・片づけを始める前に冷暖房を停止する。（装置内の熱を有効利用）
- ・タイムマネジメント表に基づいて準備・片づけ時には不要な電気を消灯する。

2) 廃棄物排出量の削減

- ・グループウェア・メールの利用等、文書の電子化に取り組む。
- ・メモ用紙などは裏紙を使用し、封筒の再利用等を行なう。
- ・薬品購入の包装単位を検討し、廃棄する空箱・段ボール等の量を減らす。
- ・使用済みインクカートリッジのリサイクルに取り組む。

3) 節水

- ・節水ポスターを掲示し、手洗い、洗い物、歯磨き等において日常的に節水を励行する。

4) 防災対応

- ・防災対応マニュアル・フローチャートを活用して防災訓練を実施する。
- ・緊急時連絡網を作成し、非常時の訓練を行う。

5) 社員・経営陣の意識向上

- ・経営者のネットワークを活用して、エコ活動の幅を広げる。
- ・環境経営に関する社外向け活動や外部からの評価を、社内にフィードバックする。

6) 薬局・薬剤師の職能を活かした組織本来の取り組み

- ・多剤服用による健康への害を予防し、ポリファーマシーの解消に努める。
- ・学校薬剤師活動や学生実習の受け入れを通じて、青少年に薬の適正使用や企業の環境への取り組みを伝える。
- ・IT ツールを活用した適正な在庫管理により、廃棄薬剤を減らす。


7) 環境啓発活動の展開

- ・医薬だよりにエコに関するページを毎月掲載する。
- ・スタッフブログやSNSを通じて環境活動や環境保全の重要性を積極的に発信する。
- ・地域ESD拠点として環境事業部と協力し、イベントを開催する。
- ・外部との意見交換の機会を設定し、地域へのSDGs浸透を図る。

※空調の適温化は夏季・冬季実施。他は通年実施。

※担当は各薬局環境委員。

取組結果とその評価

項目	単位	基準年 (2020年度)	2022年度		
			目標	実績	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO2	47613.7	6336.84	4893.5 (目標値比-23%)	
電気使用量	kWh	80080.0	81681.6 (+2%以内)	89162.6 (基準年比+9.2%)	
廃棄物排出量	kg	5618.8	5477.0	5489.6	
リサイクル率	%	73.8	約78	77	
水使用量	ℓ	338	401	359	
エコビープルの育成	-		2名(新入社員1名、社員1名)受験→合格		
組織本来の取り組み	-		環境経営計画による取り組み→p.12~13		
環境啓発活動	-		環境経営計画による取り組み→p.14		

備考：評価の欄



達成

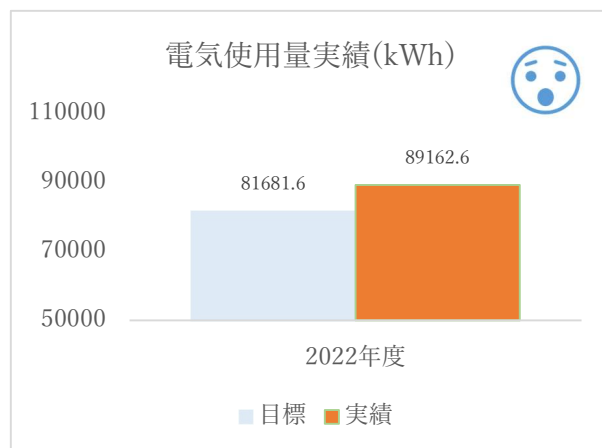
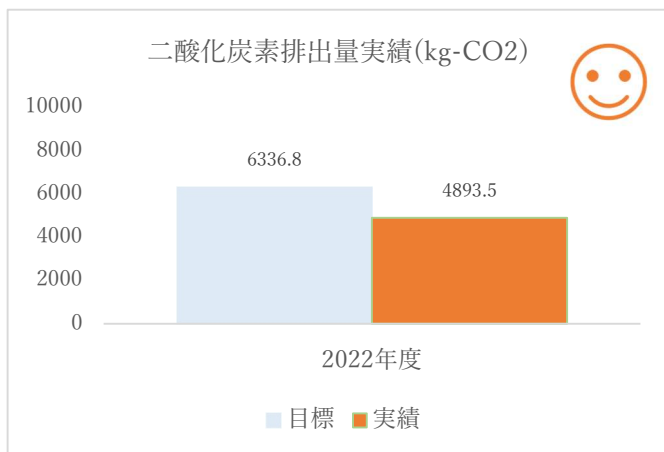


ほぼ達成



未達成

<二酸化炭素排出量の低減>



取り組み内容	結果
夜間、休日はパソコン、プリンター等の主電源を切る。	○
空調の適温化に努める。(医療機関であるため、来局者が不快でない温度設定。また夏場休日中に高温にならないよう医薬品の適正な温度管理。)	○
片づけを始める前に冷暖房を停止する。(装置内の熱を有効利用)	○
タイムマネジメント表に基づいて準備・片づけ時には不要な電気を消灯する。	○

2020年から平野みらい薬局・平野ごう薬局・平野拝志薬局での太陽光発電による自家消費を行い、2021年8月にはその他の店舗も含め、購入している電力を全て再エネ由来の電力へと切り替えました。電気使用による二酸化炭素排出がなくなったため、二酸化炭素排出量は上方修正した目標値を10%ほど上回って削減目標を達成しました。

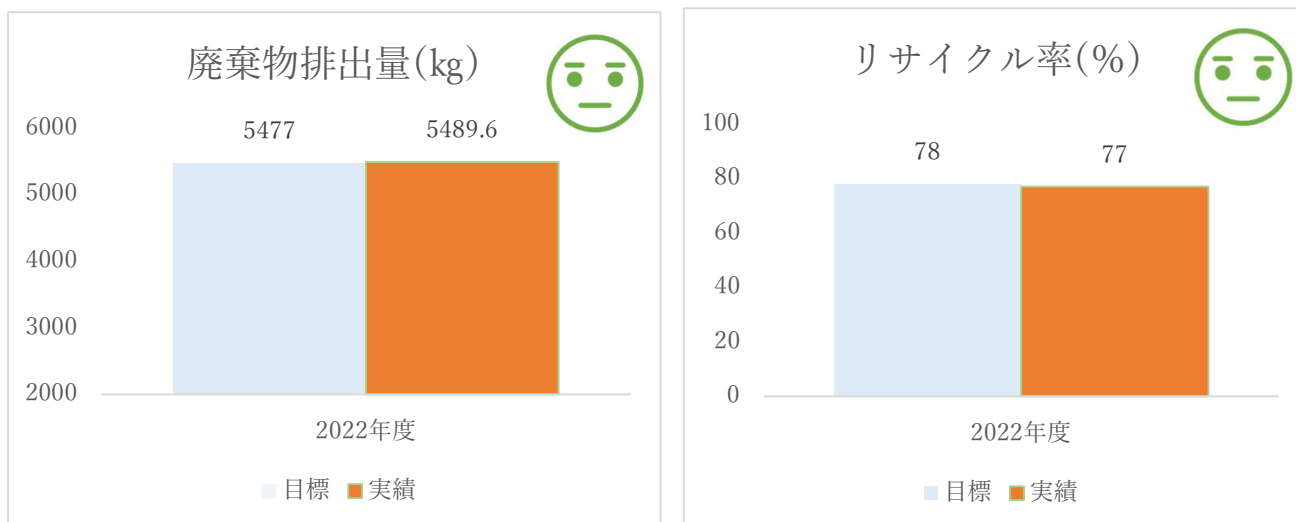
電気使用量(太陽光発電の自家消費分も含む)は引き続きコロナ禍の感染対策を行いつつ節電に取り組み、グリーンカーテンやロールスクリーンの上手な活用により夏の高温化に対処したり、終業時の消し忘れ防止のため目につく場所に消灯確認のメモを貼ったりと各薬局で工夫して取り組んでいます。気候の安定した春秋は基準年並みであった一方、特に店舗面積の大きい薬局で冬場の電気使用量増加幅が大きく、換気による空調効率低下が著しく表れていました。

今後も引き続きタイムマネジメント表を用いた節電に取り組むとともに、主な二酸化炭素排出源となるガソリン使用量削減も目標にエコドライブに再度取り組んでいきます。



グリーンカーテンはコンパニオンプランツに挑戦。患者様とのコミュニケーションのきっかけにも。収穫した野菜は社員が持ち帰り、野菜が不足しがちな若手社員の健康づくりにも役立ちました！

< 廃棄物排出量の削減 >

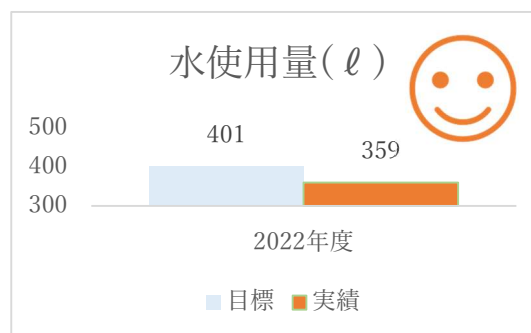


取り組み内容	結果
グループウェア・メールの利用等、文書の電子化に取り組む。	○
メモ用紙などは裏紙を使用し、封筒の再利用等を行なう。	○
薬品購入の包装単位を検討し、廃棄する空箱・段ボール等の量を減らす。	○
使用済みインクカートリッジのリサイクルに取り組む。	○

薬局ごとに来局者数が大きく異なり、それによって廃棄物の量も薬局ごとに異なります。今年度も各薬局で設定した削減数値目標に基づき取り組みを行いました。全社合計の廃棄物排出量実績は目標値をやや上回る結果となりましたが、コロナ禍で減少していた薬局の受付処方枚数が回復傾向にあることを考慮すると、廃棄物削減の取り組みや分別の徹底が習慣化して行えていると考えられます。今年度から新たに始めた使用済みインクカートリッジの回収は、郵便局に持ち込み「インクカートリッジ里帰りプロジェクト」に参加しています。

< 節水 >

取り組み内容	結果
節水ポスターを掲示し、手洗い、洗い物、歯磨き等において日常的に節水を励行する。	○



グリーンカーテンの水やりのため、比較的使用量が少ない夏場の水使用量が増加しました。来局患者数も徐々に戻ってきており、来局者利用と感染予防策のための手洗いや清掃による使用で、今後の数値は少しずつ増加が予想されるため、引き続き漏水のチェックとこまめな手洗い・清掃など節水に取り組めます。

< 防災対応 >

取り組み内容	結果
防災対応マニュアル・フローチャートを活用して防災訓練を実施する。	○
緊急時連絡網を作成し、非常時の訓練を行う。	○

県下一斉に行う地震発生時の安全確保訓練“シェイクアウトえひめ（11/23～12/23）”にあわせて、各薬局で11/27～12/22の期間に安全確保訓練を実施。併せて「防災・減災マニュアル」に基づき、避難所までの経路確認や被災時に患者様がいた場合の避難誘導手順について確認しました。

緊急時の安否確認についてもテストメールを一斉送信し、社員や家族の安否確認の訓練を行いました。また近年の無料通話アプリ等の普及とともにメールの確認頻度が下がっているため、社内ネットを利用した安否確認・薬局の被災状況確認のテストも実施しました。2022年2月にはオミクロン株の流行を受け、「感染管理指針・事業継続計画」の見直し・改訂を行いました。

< 社員・経営陣の意識向上 >

取り組み内容	結果
経営者のネットワークを活用して、エコ活動の幅を広げる。	○
環境経営に関する社外向け活動や外部からの評価を、社内にフィードバックする。	○

2名がeco検定を受験し合格しました。新聞紙面での取り組み紹介など外部評価を社内でも共有しました。環境事業部は、所属している経営者団体「愛媛県中小企業家同友会」の会員や四国EPOと共にエネルギーの地産地消について引き続き学習を重ねました。2022年6月には中小企業家同友会全国協議会にて、松田社長が「薬局が取り組むSDGs ～健康で環境にやさしい暮らしの実現に向けて～」と題して、実践報告を行いました。

< 薬局・薬剤師の職能を活かした組織本来の取り組み >

取り組み内容	結果
多剤服用による健康への害を予防し、ポリファーマシーの解消に努める。	○
学校薬剤師や学生の実習受け入れを通じて、青少年に薬の適正使用や企業の環境への取り組みを伝える。	○
ITツールを活用した適正な在庫管理により、廃棄薬剤を減らす。	○

*ポリファーマシーの解消

薬剤師は患者様に服薬指導を行う際、薬の副作用や多剤服用による体調への影響を確認して薬学的判断に基づき医師への処方提案、フィードバックを行っています。一人ひとりに合った服薬指導によるアドヒアランス向上や医師との連携により、より高い治療効果の発現やポリファーマシーの解消につながっています。2022年度は616件の残薬調整や重複投与の防止を行い、薬の適正使用や副作用の防止に寄与しました。

*学生の受け入れと地域での講演活動

7月には薬剤師を志す中学生の職場体験学習の受け入れを行いました。また大学の長期休暇を利用した報酬型インターンシップを実施し、より専門性の高い薬局業務の経験を通じた職業観の形成を行っています。

地域から薬剤師や管理栄養士への出張講師依頼もあり、薬や健康食品の適正使用や食による夏の健康づくり講座など地域に出向いた活動も行いました。

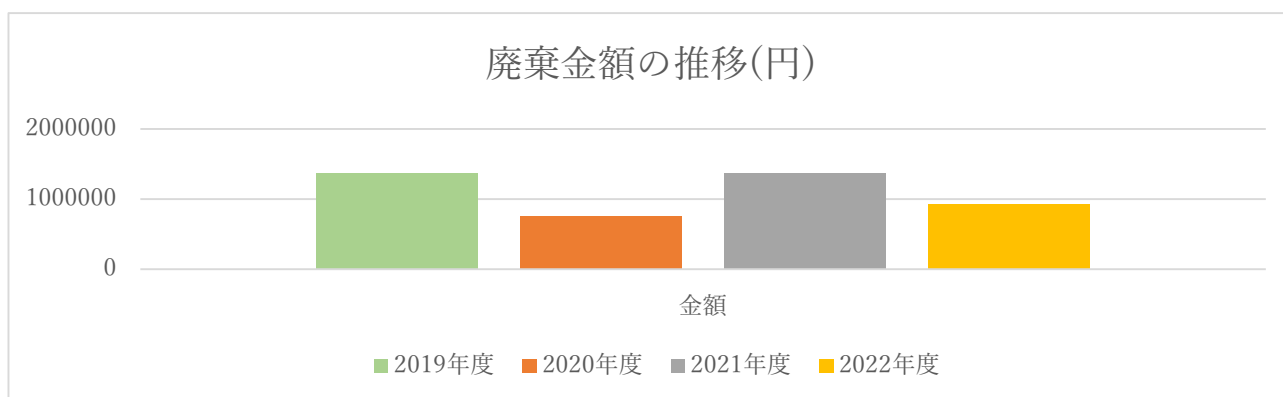


地域サロンでの出張講座の様子。サプリメントとの上手なつきあい方について薬剤師がお話ししました。

*ITツールを活用した在庫管理

全店舗の不動産在庫をリアルタイムで確認できる発注システムの導入から数年が経ち、不動産在庫を把握して早期に他の店舗で使用する業務の流れが出来ています。医薬品流通の不安定が続く困難な状況の中、システムを活用して社内の各薬局が意識して、医薬品在庫の確保と医薬品ロス削減に取り組みました。

2022年度の期限切れ等による薬剤廃棄金額は929,971円でした。昨年度に比べて減少の結果となりました。期限の長さや価格が薬品によって異なり、処方薬の変更もあるため単年ごとの廃棄金額を単純に比較できませんが、システム導入により効率的に在庫管理を行う業務体制が整いました。廃棄薬剤の削減は環境面でも経営面でも非常に重要なポイントなので、今後もシステムをさらに有効に活用して廃棄薬剤の削減に取り組んでいきます。



<環境啓発活動の展開>

取り組み内容	結果
医薬だよりエコに関するページを毎月掲載する。	○
スタッフブログや SNS を通じて環境活動や環境保全の重要性を積極的に発信する。	○
地域 ESD 拠点として環境事業部と協力し、イベントを開催する。	○
外部との意見交換の機会を設定し、地域への SDGs 浸透を図る。	○

* 医薬だより、SNS での情報発信

毎年来局患者様向けに発行している「医薬だより」に、エコに関する記事の掲載を継続し、環境への意識の啓発や家庭でできるエコ活動の紹介、災害への備えの啓発を行いました。スタッフブログ「KEIZO 区 (ケイズク)」にも掲載し、来局者だけでなく幅広い世代への情報発信を継続することができています。

* ESD 拠点としての活動

昨年に引き続き環境事業部と協力して“健康と環境を考える”をコンセプトに、地域に向けたイベントをオンラインで実施しました。

「医薬だより」発行月と内容

9月	プラスチック・スマート
10月	エコショップ hirano kuroom (クルーム)
11月	フードドライブ
12月	エコ・アクション・ポイント
1月	古着回収サービス
2月	「サステナブルな社会」って？
3月	アースデイ (Earth Day : 地球の日)
4月	気候変動について話そう
5月	「プラスチックに係る資源環境の促進等に関する法律」が2022年4月1日から始まりました。
6月	“エコロジー”の語源
7月	家庭でできる節電
8月	水を大切に使いましょう

✿10月開催 かんきょう広場“秋の夜長を楽しもう”@zoom ✿



オンラインで開催。親子参加も含め10組25名の方にご参加いただきました。身近な場所で秋の自然を楽しむきっかけづくりのため、秋によく聞く虫の鳴き声や旬の食材を使った料理レシピを紹介。参加者はそれぞれ好きな飲み物を用意して、オンライン上の焚火を囲みながら静かな夜のひとときを楽しみました♪

✿12月開催 オリーブオイル石鹸づくり”@平野みらい薬局✿

会場と zoom をつないでハイブリッド形式で開催。お肌にも環境にもやさしいオリーブオイル石鹸づくりを体験。冬のスキンケアや保湿剤の上手な使い方のワンポイントアドバイスも行いました。



*その他の取り組み



健康と環境にやさしい生活スタイルの提案のため、プラスチックフリー商品の販売を平野みらい薬局・まつだ薬局で販売。



ビーチクリーンしまなみ主催のスポーツごみ拾いに今年度も社員有志で参加。

バーチャル大学の講師をつとめました！

四国 ESD センターが市民や学生向けに開催している、「衣」「食」「住」といった身近なテーマをもとに環境課題について考えるバーチャル大学。2021年10月に「健康な暮らしと地球環境の未来を考える」と題して薬局から見た“健康と住環境”について、ヒートショックやシックハウス症候群など建物が与える体への影響や、平野薬局が取り組んでいる環境への取り組み、自然にある材料を有効活用した環境にも人にもやさしい建物、再エネへのシフトといった事例をご紹介させていただきました。

ESD (Education for Sustainable Development) の場
四国 ESD バーチャル大学 (ESDVU)
 消費者教育の推進と社会実装 - ジェンダーの視点とユニバーサルデザインの視点 -

第6回 勉強会

「住」から考えよう！ SDGs

健康な暮らしと地球環境の未来を考える

今年度よりスタートした四国 ESD バーチャル大学 (ESDVU)。
 どこにいても気軽に ESD に触れていただけるよう、オンラインで学びの場を提供しています。
 今回は薬局から見た「健康と住環境」についてのお話です。
 ヒートショックやシックハウス症候群など、構造や化学物質による体への影響や、自然にある材料を有効活用した建物にも人体にもやさしい建物について学び、CLT・GEO パワー再生エネへのシフトといった事例をご紹介できます。
 「国政見」が聞ける今、四国での具体的な取り組み事例から私たち何者かを選び、選び取っていくべきは何かを一緒に考える機会とします。
 今回が初めての方も大歓迎です。お気軽にご参加ください。

開催日時 2021
10月19日(火)
 第1部 15:00~16:30
 第2部 16:30~17:00

Zoom によるオンライン開催
 参加費無料

プログラム

- ◆第1部 (15:00-16:30)
 - 二時評
 - 講演
 『健康な暮らしと地球環境の未来を考える』
 平野 啓三 氏(株式会社平野 取締役会長)
 - グループに分かれて意見交換
 - 話し合ったことを共有
 - 総 括
- ◆第2部 (16:30-17:00)
 - 学びの場
 もっと知りたい！ 質疑応答タイム
 - SDGs の視点などからより議論を深めます

※主催者
 『四国地域 ESD 拠点交流会』
 11月19日(火) 13時~16時
 開催場所は、SDGs 推進の場として
 取りご用意しています。

次年度環境経営目標

依然としてコロナ禍にあるため、換気や手洗い・消毒の徹底など感染予防対策を継続しながら取り組んでいきます。一方で徐々に来局患者数が回復傾向にあることや、保健所や医療機関からの要請によりコロナ陽性患者宅への配達件数が増加していることなど、この2年間の低迷期とは少しずつ異なってきた部分もあります。

次年度数値目標は2023年度までの中期目標を据え置きとすると同時に、2024年度以降のwithコロナ・afterコロナの状況に合った中期目標設定となるよう注視していきます。主な二酸化炭素排出源となってくるガソリン・軽油については2024年度以降の数値目標に設定できるよう、2023年度はエコドライブを実行計画のみに設定してモニタリングを行います。医薬品の廃棄金額削減の数値目標に関しても単年度ごとの比較は困難であるため、2024年度以降に中期目標として設定できるようモニタリングと適切な目標値設定の方法を検討いたします。

項目	単位	基準年 (2020年度)	中期目標		
			2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素 排出量	kg-CO2	47613.7	48439.2 (+約 1.7%以内)	6336.84 (-約 86.7%以内)	6336.84 (-約 86.7%以内)
電気 使用量	kWh	80080.0	81681.6 (+2%以内)	81681.6 (+ 2 %以内)	81681.6 (+ 2 %以内)
廃棄物 排出量	kg	5618.8	5501.9	5477.0	5445.1
リサイ クル率	%	73.8	約 77	約 78	約 79
水使用量	ℓ	338	401	401	401
エコピープ ルの育成	-	新入社員の eco 検定受験率 100%			
組織本来の 取り組み	-	環境経営計画による取り組み→p.17			
環境啓発 活動	-	環境経営計画による取り組み→p.17			

次年度環境経営計画

※一來期追加

1) 二酸化炭素排出量の低減

- ・ 夜間、休日はパソコン、プリンター等の主電源を切る。
- ・ 空調の適温化に努める。(ただし、医療機関であるため、来局者が不快でない温度設定。また夏場休日中に高温にならないよう医薬品の適正な温度管理。)
- ・ 片づけを始める前に冷暖房を停止する。(装置内の熱を有効利用)
- ・ タイムマネジメント表に基づいて準備・片づけ時には不要な電気を消灯する。
- ・ 急ブレーキ、急発進の少ないエコドライブを行う。
- ・ 社用車として電気自動車を導入し、配達業務や社員のカーシェアリングに活用する。

2) 廃棄物排出量の削減

- ・ グループウェア・メールの利用等、文書の電子化に取り組む。
- ・ メモ用紙などは裏紙を使用し、封筒の再利用等を行なう。
- ・ 薬品購入の包装単位を検討し、廃棄する空箱・段ボール等の量を減らす。
- ・ 使用済みインクカートリッジのリサイクルに取り組む。

3) 節水

- ・ 節水ポスターを掲示し、手洗い、洗い物、歯磨き等において日常的に節水を励行する。

4) 防災対応

- ・ 防災対応マニュアル・フローチャートを活用して防災訓練を実施する。
- ・ 緊急時連絡網を作成し、非常時の訓練を行う。

5) 社員・経営陣の意識向上

- ・ 経営者のネットワークを活用して、エコ活動の幅を広げる。
- ・ 環境経営に関する社外向け活動や外部からの評価を、社内にフィードバックする。

6) 薬局・薬剤師の職能を活かした組織本来の取り組み

- ・ 多剤服用による健康への害を予防し、ポリファーマシーの解消に努める。
- ・ 学校薬剤師活動や学生実習の受け入れを通じて、青少年に薬の適正使用や企業の環境への取り組みを伝える。
- ・ IT ツールを活用した適正な在庫管理により、廃棄薬剤を減らす。

7) 環境啓発活動の展開

- ・ 医薬だよりにエコに関するページを毎月掲載する。
- ・ スタッフブログやSNSを通じて環境活動や環境保全の重要性を積極的に発信する。
- ・ 外部との意見交換の機会を設定し、地域へのSDGs浸透を図る。
- ・ 薬局内掲示等により、来局患者様へ平野薬局の再エネ化の取り組みなどを発信する。
- ・ 同友会で環境経営の事例を学び、自社での実践報告を通じて共に取り組む企業を増やす。

※空調の適温化は夏季・冬季実施。他は通年実施。担当は各薬局環境委員。

環境関連法規への違反・訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は以下の通りです。

適用される法規制	摘要される事項（施設・物資・事業活動）
フロン排出抑制法	エアコン、業務用冷蔵庫、給湯器
廃棄物処理法	一般廃棄物、使用済み注射針、吸入容器
グリーン購入法	薬局内備品類
容器包装リサイクル法	薬袋、レジ袋
浄化槽法	浄化槽（平野グリーン薬局）

当事業所に適用される関連法規等の遵守状況を点検した結果、違反はなく、また、関係当局による違反等の指摘や訴訟等はありませんでした。今後も環境関連法規と社会的要求事項を進取し、適時改善を行なって更なる環境保全活動の制度の向上を図ってまいります。

代表者による全体評価

2019年末から始まった新型コロナウイルスの感染拡大は今なお猛威を振るい、日本国内においてはここにきて感染者数が過去最多を更新し続けている。さらにロシアによるウクライナ侵攻においては世界平和と国際秩序を脅かし、経済にも世界規模で様々な影響が生じており、社会を取り巻く環境は益々厳しさを増すことが予想される。このように社会やビジネスにとって未来の予測が難しくなる状況を Volatility (変動性)・Uncertainty (不確実性)・Complexity (複雑性)・Ambiguity (曖昧性) の頭文字を取って VUCA (ブーカ) といい、まさに今の時代の変化そのものを表している。地球温暖化に伴う気候変動は不確実性の最たる例であり、新型コロナウイルスのような未知の疾病もまた VUCA の時代の象徴的な事例といえる。環境問題は地球や人間の健康・経済社会を脅かす危機的な課題であり、このような時代だからこそ、環境・社会・経済を包括的にあるいは両立させながら解決をめざす SDGs の実践こそが、持続可能な社会への歩みを確かなものにする取り組みだと言える。

今期の弊社の取組みについては 2021 年 8 月から全店舗の購入電力を全て再エネ由来の電力へと切り替え、電気使用による二酸化炭素排出をゼロに抑えることで二酸化炭素排出量は上方修正した目標値を 10%ほど上回って削減目標を達成することができた。一方で、夏と冬の冷暖房効率が悪く電力使用量については目標値を上回ってしまったが、これは新型コロナの感染対策を最優先とし、薬局内の換気を十分に行ったためであり、クラスター発生もなく全店舗が通常通りに営業を継続することができた。主な二酸化炭素排出源となるガソリン使用量の削減については、各自のエコドライブの実行に加え、来期からは電気自動車を導入して配達業務や職員間のカーシェアなどを実施して効果を検証していきたい。また、コロナ禍ならではの取組みとしては、ZOOM を活用した啓発活動を行った。かんきょう広場のイベントはオンライン配信して参加者との交流を図ったり、バーチャル大学の講師や、中小企業家同友会の全国配信で平野の SDGs の取組みを報告したりと、限られた状況の中で工夫して ESD 活動を継続できたのは評価できる点である。

2013 年にエコアクション 21 を取得して 10 年になろうとしている。やるべきことを環境経営方針と計画に明記して実践し、毎月の進捗確認と年に 3 回の全体会議で課題や改善点を次の方針や計画に盛り込むというサイクルを回すことで着実に前進してきた。今後も世の中の動向を注視しつつ、先見性をもって取り組んでいきたい。実施体制についても、環境管理責任者と各薬局の環境委員が中心になり、全社員がエコ検定を受けて当事者意識をもち、社員一人一人が当たり前前にエコ活動に取り組む姿勢が定着しているので、この体制を維持しつつ、次の環境管理責任者を担えるような人材も育てていきたい。来期も引き続きコロナ禍での薬局業務を維持できるようにまずは事業継続力の強化に努め、その中で一人一人がエコ活動を積極的に実践し、外部への発信を通じて共に取り組む仲間を増やしていきたい。

<次年度に向けた対応>

環境経営方針：変更なし

環境経営目標：変更なし

環境経営計画：変更あり

実施体制：変更あり（環境事業部廃止）

2022 年 9 月 5 日

株式会社平野 代表取締役 松田泰幸